

島根県スポーツ少年団

—— 島根県スポーツ少年団の発足と これまでのあゆみ

「スポーツによる青少年の健全育成」を目的に日本スポーツ少年団が創設され、その意義に賛同し昭和39年1月1日、島根県教育委員会の馬場純一教育長が本部長となり、島根県体育協会内に島根県スポーツ少年団が創設された。この呼びかけに対して、島根県内においては47市町村がスポーツ少年団を結成し、島根県スポーツ少年団への登録を行った。

令和5年度は、16市町本部に233のスポーツ少年団単位団、4,335人の団員数で島根県スポーツ少年団が活動している。

現在に至るまで、全国スポーツ少年大会への派遣や日独同時交流での派遣・受入を実施するなど、日本スポーツ少年団事業へも積極的に参加している。

平成22年には、国立三瓶青少年交流の家において第48回全国スポーツ少年大会が盛会に開催された。令和4年3月には、第19回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会を実施するために準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、残念ながら中止となった。

また、平成27年には創設50周年を記念し、一斉奉仕活動やスポーツ少年団の楽しさをアピールできる川柳の募集事業、アテネオリンピック陸上競技日本代表の土江寛裕氏を招き、記念式典を開催した。その後、令和5年度には創設60周年の記念事業としてリーフレットと記念ステッカーを作成した。



平成22年全国スポーツ少年大会

—— 島根県スポーツ少年団の 登録団員数

島根県スポーツ少年団の団員数について、少子高齢化や子どもたちのスポーツ離れの影響を受け、団員の減少が続いており、年々団員の確保が難しくなっているのが現状である。

平成16年度には8,763人いた団員数は、令和5年度には半分以下の4,335人の団員数となった。

少子高齢化に加えて、令和2年の新型コロナウイルス感染症の拡大により、スポーツ活動の機会を失い、スポーツ少年団の登録減少に大きな影響を及ぼしたことは否定できない。

しかし、県スポーツ少年団本部として、令和3年度からの県スポーツ協会の中期計画を基に、アクティブチャイルドプログラムを活用し、未就学児を対象に運動する機会を提供するべく事業を実施している。

この事業は、各市町スポーツ少年団の協力を得て、保育園や幼稚園に県内講師を派遣し、運動習慣を形成するため、身体を動かすことの楽しさや人と関わることの大切さを遊びの中から学び、遊びの中からさまざまな動きを習得することで、スポーツの楽しさを伝えている。その先に、体を動かすことが好きになり、スポーツに興味・関心を持ちスポーツ少年団への登録増加につながるよう取り組んでいる。



「スポーツから学んだもの～夢をあきらめない～」と題して記念講演する土江寛裕氏

【10年間の市町スポーツ少年団数】

市町名	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
松江市	31	29	28	28	29	29	30	32	32	31
浜田市	16	16	15	15	15	14	13	13	13	13
出雲市	95	92	89	89	88	87	86	87	84	81
益田市	7	7	7	8	8	7	7	7	7	7
大田市	20	19	19	18	18	17	11	11	12	11
安来市	20	18	19	17	16	16	16	16	16	15
江津市	10	10	10	8	8	8	8	6	4	4
雲南市	43	41	41	41	41	40	36	35	35	35
奥出雲町	19	18	18	18	18	18	17	15	15	14
飯南町	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4
川本町								1	1	1
美郷町	2	2	2	2	2	2	2		1	1
邑南町	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4
津和野町	8	7	7	6	6	6	6	6	6	6
吉賀町	6	6	6	6	6	5	4	4	4	4
隠岐の島町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	289	277	273	268	267	261	247	244	241	233

【10年間の市町スポーツ少年団員数】

市町名	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
松江市	1,348	1,204	1,169	1,128	1,011	993	862	957	905	865
浜田市	266	255	238	240	218	197	182	177	165	168
出雲市	2,041	2,019	1,865	1,830	1,713	1,614	1,497	1,564	1,440	1,430
益田市	149	141	140	152	159	155	147	159	151	169
大田市	342	328	329	320	289	265	178	182	190	197
安来市	384	363	333	314	300	281	277	277	246	232
江津市	176	154	120	109	116	108	108	95	85	100
雲南市	773	794	795	775	751	721	660	664	596	657
奥出雲町	318	275	263	263	252	258	223	233	224	212
飯南町	89	99	94	93	83	72	68	57	51	54
川本町								21	16	12
美郷町	27	28	23	22	23	23	26		9	8
邑南町	77	69	72	81	84	88	68	80	84	82
津和野町	72	66	59	54	49	45	55	53	59	61
吉賀町	107	94	92	87	81	65	57	53	56	48
隠岐の島町	32	33	31	28	31	41	33	32	39	40
合計	6,201	5,922	5,623	5,496	5,160	4,926	4,441	4,604	4,316	4,335



創設50周年記念式典



アクティブチャイルドプログラム活用事業

—— 今後の課題

昨今において、子どもを取り巻くスポーツの環境や保護者のスポーツニーズなどが変化し、選択肢も多様化している。

そのような中、平成29年度日本スポーツ少年団常任委員会において、永年資格となっていた認定員資格の養成を終了し、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度の改定により新設されたスタートコーチを養成することとなった。指導者は、競技力向上だけでなく新しい時代にふさわしいコーチングが求められるようになっている。スポーツ少年団指導者が有資格となることによって、登録料などの経費負担が必要になったが、常に学び続ける環境を整えることにより、スポーツ指導者に求められる資質能力の修得が可能となった。

県スポーツ少年団として、これからスポーツに出会う子どもたちや既にスポーツを楽しんでいる子どもたちのためにも、良い環境を提供することを目指し資格保有者の指導者確保へ積極的に取り組んでいく必要がある。

なお、前述したとおり、本県スポーツ少年団が今後もジュニア・ユース世代を受け入れるため、アクティブチャイルドプログラムを活用し、幼児期の子どもたちを通じて運動の楽しさを体感する取り組みを継続的に実

施していく。

また、部活動の地域移行については、指導者や活動場所の確保、経費面での支援など解決しなければならない課題は山積している。その中で、スポーツ少年団がどのような役割を担っていくのが、今後の課題となる。

【歴代本部長】

馬場 純一	昭和39年1月～昭和39年3月
脇田 裕	昭和39年4月～昭和42年7月
久津名 等平	昭和42年8月～昭和44年3月
藤原 恭一	昭和44年4月～昭和48年3月
大久保 正厚	昭和48年4月～昭和50年9月
中村 芳二郎	昭和50年10月～昭和52年8月
水津 卓夫	昭和52年9月～昭和54年4月
佐藤 不二男	昭和54年5月～平成元年3月
林 正雄	平成元年4月～平成9年5月
織奥 信男	平成9年6月～平成25年3月
河原 健次	平成25年4月～平成28年12月
大森 栄二	平成28年12月～現在



中国ブロックスポーツ少年大会・リーダー研究大会



ジュニアリーダーズスクール